

はしど



☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

平成31年 1月 8日
学校だより 第9号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊哉
<http://www.hashido-e.nerima-ky.ed.jp/>

「本気」と「みんな」

校長 青木俊哉

明けましておめでとうございます。

二学期の終業式、子供たちにこんな話をしました。

4か月前の始業式では、競泳の池江璃花子選手の話を紹介し、「努力は結果につながる“ただ一つの道”である」ことを伝えました。このことを踏まえ、二学期の皆さんの様々な活動への取組を見て感じたことは、「大事なことは、“できたか、できないか”ではなく、そのために自分(達)は“何をしたか、どのように取り組んだか”である。」ということです。言い換えれば、「結果より経過、努力が大切」ということになります。・・・

この思いを伝えるための具体的な話として、長縄集会に向けた取組を取り上げました。キーワードは「本気」と「みんな」です。「本気」とは、人に言われて取り組むのではなく、自分から動き始めて初めて実現できること。また、「みんな」で取り組むとは、得意な人も、苦手意識をもつ人も、それぞれが自分の壁を乗り越えるよう力を出し、支え合って成り立つもの。そんな意識をもち努力してほしいと願っています。「本気」と「みんな」を意識して取り組むことによって、それぞれのクラスの取組を価値付けられるとともに、三学期以降の様々な取組にもつなげていけると考えたわけです。

さて、この二つのキーワードを強く意識させられる競技会が、毎年この時期に行われます。正月恒例の東京箱根間往復大学駅伝競走(通称箱根駅伝)です。今年は、青山学院大学の5連覇が懸かり、例年以上に盛り上がりました。結果は、往路で2区間結果が伴わず、6位と出

遅れた青山学院大、その往路を制した東洋大も復路の詰めで苦しみ、安定した走りで着実に順位を上げた東海大がトップでゴールを切り、悲願の初優勝となりました。復路で盛り返し2位でゴールした青山学院大の原監督は、「進歩を止めた時点で、退化が始まると痛感した。」との言葉を残しています。一度勝つことより勝ち続けることの方がはるかに難しいといわれるチームスポーツ、ましてや毎年メンバーが入れ替わる学生スポーツにおいて、チームの核となる方針や思想など、大事なことを貫き、引き継げる青山学院大の素晴らしさ。一方、1年前選手が自主的に開いたミーティングで、「青山学院大の連覇は俺達が止める。」との誓いをたて、厳しい練習メニューに進んで取り組んだ東海大の選手達とその成長に強い手応えを感じた両角監督。プロスポーツのチーム以上にプロフェッショナルを感じる今年の正月でした。

選手の自主性を重んじ個々の「本気」を引き出す指導。代表選手だけでなく、バックアップの選手も含め預かった全ての選手＝「みんな」をその気にさせる指導。改めて、組織を動かす監督の言葉にも感動を覚え、新しい年に臨む“力”を得た思いです。

今年は「亥年」。亥の如く、前進するパワーとエネルギーを蓄え、夢の実現に向け前に進む、そんな子供たちを育てていきたいと思います。「チーム橋戸」、教職員一丸となり、“子供たちの笑顔のために”全力で取り組んでまいります。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。